

ペットとの暮らしの未来とは

北進ゼミナール

「デコピン」と聞いて何を想像するだろうか。昨年11月までであれば、他人のおでこを指で弾く行為をイメージする人が大勢を占めていたはずである。しかし今だとMLBドジャースで活躍している大谷翔平選手の愛犬を思い浮かべる人も多いのではないだろうか。

大谷選手に限らずペットを飼育していたり、飼育したいと考えていたりする人は多い。資料Ⅰは現在飼っているペットとこれから飼いたいと考えているペットについてのアンケート結果を抜粋してグラフにしたものである。これを見ると犬が人気NO.1で猫が人気NO.2であることが分かる。しかし、2016年から2020年までの5年間の犬と猫の飼育頭数の変化を示した資料Ⅱの二つのグラフを見ると実態は少し異なることが読み取れる。

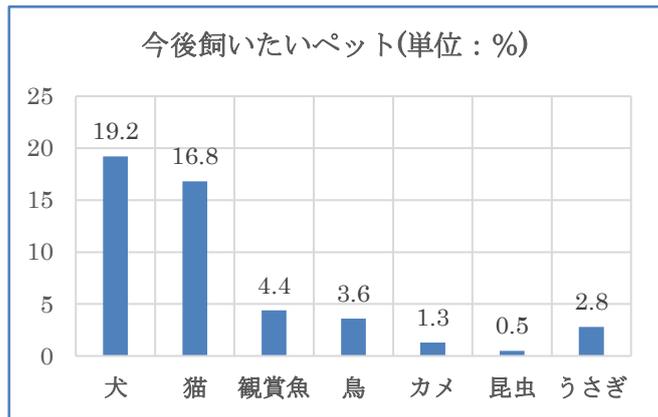
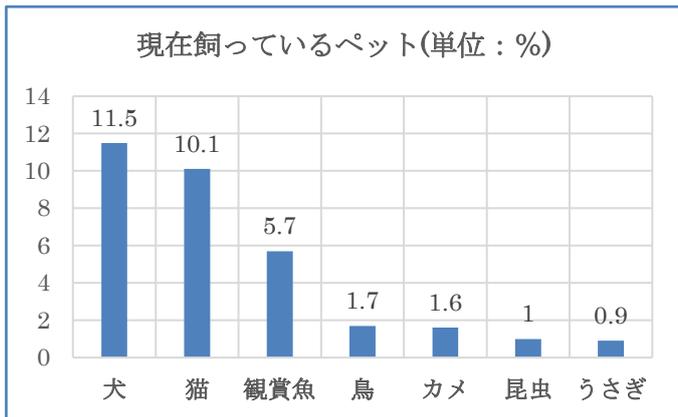
筆者はその理由は大きく分けて二つあると考えた。一つは犬と猫では飼い主にかかる負担の度合いが異なるという点である。犬は猫よりもしつけや散歩などで手間がかかる。世帯人数が多ければ家族で分担できたりもするのだろうが、単身や夫婦共働きの世帯が増えている現在ではそれがネックになって、犬の飼育を躊躇することは想像に難くない。もう一つは住環境の変化がペットを飼おうとしている人の心理に影響を与えているという点である。都会を中心に集合住宅で暮らす人が多く、管理規約でペット飼育そのものが禁止されていたり、たとえ認められていても近隣への配慮から吠える可能性のある犬の飼育をためらったりするケースもあるのではないかと。社会構造の変化で一世帯あたりの人数が減少し、住まいの密集化もあって、希望と現実の間にギャップが生まれているように感じるのだ。

ところで、ネットで「ペット」と検索すると関連検索ワードで「ペットと泊まれる宿」が表示されるようになっている。ここでのペットも犬や猫を想定していると考えられる。旅先にペットを同伴したいと考える人が増えている中で、今年の1月2日、羽田空港で日本航空と海上保安庁の航空機の衝突炎上事故は発生した。日航機の乗客乗員は全員無事だったものの、海保機に搭乗していた5人と日航機の貨物室に預けられていたペット2匹が亡くなったと報じられている。それを受けて、ペットの同伴搭乗を認めるべきだという声がネット上で高まりを見せた。しかし、その実現には動物アレルギーを抱えていたり動物嫌いであったりする人との距離感をどう保つのかという問題がある。また、たとえ同伴搭乗が認められても手荷物扱いとなって緊急脱出時に機内に置き去りにしなければならないとすると(現状では緊急脱出時に手荷物を置いていくのが絶対ルール)、飼い主に耐えがたい精神的苦痛を与えてしまうだろう。それも懸念材料となる。飛行機を利用してペットと気軽に遠出ができるようになるにはまだ時間もかかるし、解決しておかねばならない課題がいくつか存在していると言えよう。

それでも時代は確実にペット共生社会に向かっている。大手不動産情報サイトの2022年9月のコラムによると首都圏の新築分譲マンションの8割以上がペット可となっているそうだ。また、とあるペットフード会社の2021年11月のプレスリリースでは「新たにペット同伴宿泊サービスを始めるホテルが続々登場」とあった。他人とのふれあいが減少している今、ペットは家族の一員として癒やしや安らぎをもたらす大切なパートナーとなってきている。だからこそこれから先、どのようにペットと暮らしていけばいいのか新たなルールや価値観を創り出していく必要があるのではないだろうか。

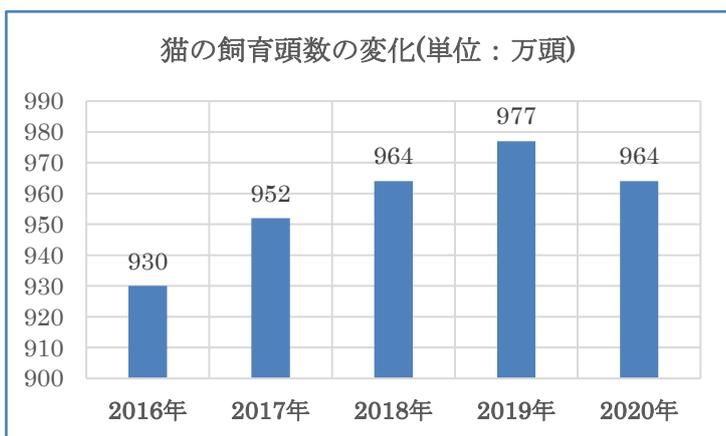
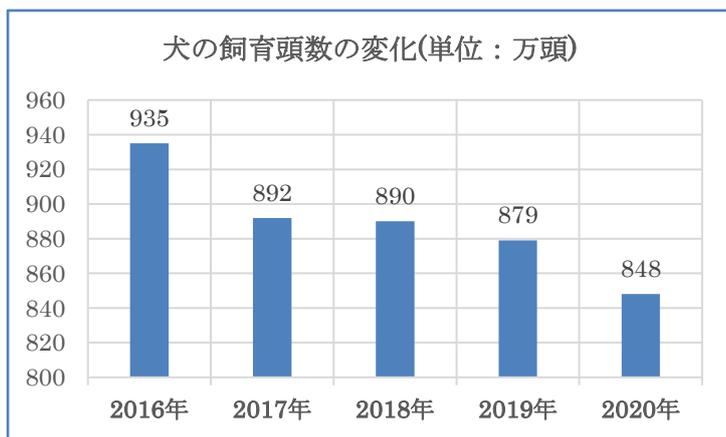
以上

□資料Ⅰ 現在飼っているペットの種類・今後飼いたいペットの種類アンケート結果



注：イオン銀行タマル web(2021年9月8日号)内の「2018 インターワイヤード調べ」より人気の高い生き物を抜粋して掲載数値を元に新規にグラフを作成した。

□資料Ⅱ 国内における犬と猫の飼育頭数の変化



注：セワクルのペットシッターコラム(2021年6月15日号)内のグラフ(ペットフード協会作成より引用)の数値を概数化した上で新規にグラフを作成した。

ペットとの暮らしの未来とは

今回はペットの中でも特に犬や猫に焦点を当てて、ペットとの共生社会とはどんな姿が望ましいのかを考えてもらうことにしました。世の中には動物好きな人もそうでない人もいます。自分自身の視点からだけではなく、自分とは異なる好みや考えを持つ人がいるだろうと想像力も働かせた上で、どうあるべきかを考えてください。課題文や資料Ⅰ・資料Ⅱに目を通した上で、以下の条件に従って常体語(「～だ」「～である」調)で作文を書いてください。

なお、課題作文は以下の手順に従って 3日に分けて 取り組んでください。また、(3)でテンプレートが示されていますが、それにこだわる必要はありません。(1)(2)の条件を守れば自由に書いて構いません。

(1)指定作文用紙に 800 字以内で書くこと。タイトルは不要です。

(2)以下の順番で目安時間(3日間合計 2.5 時間程度)を意識して進めてください。

- ①【初日 20 分程度】課題文に目を通し、あなた自身のペットにまつわるエピソードや思いを 100～250 字程度で下書きしてください(いきなり原稿用紙に書き始めないようにしましょう)。
- ②【初日 20 分程度】資料Ⅰと資料Ⅱのグラフ(計四つ)を見比べて、読み取れたことを 100～150 字程度で下書きしてください(同上)。
- ③【初日 20 分程度】課題文の第三段落に筆者の考えが述べられているが、それに対する自分自身の意見や感想を 100～150 字程度で下書きしてください(同上)。
- ④【二日目 30 分程度】どうすればペット共生社会を実現できるのかを課題や解決策を、様々なジャンルでの「共生」の姿も引用しながら 250～300 字程度で下書きしてください。(同上)。
- ⑤【二日目 30 分程度】①～④をつなげて音読しながら、誤字脱字の訂正、句読点・助詞・接続詞の点検及び修正などを行って 800 字に収まるようにして 下書きで書いてください。
- ⑥【三日目 30 分程度】⑤で完成したものを最終確認しながら指定原稿用紙に清書してください。

(3)書き方がよく分からないという生徒は以下のテンプレートを参考にして書いてください。

- ① 私の家にはペットがいる(いない)。以前は(以前から)～。私にとってペット(動物)は～という存在である。なぜなら～だからだ。(100～250 語程度)
- ② 資料Ⅰの二つのグラフからは～ということが読み取れる。また、資料Ⅱの二つのグラフからは～ということが読み取れる。これらから、～ということが分かる。(100～150 字程度)
- ③ 課題文で筆者はその理由を二つ述べているが、私もそう思う(私はそう思わない)。なぜなら～だからだ。そして、～も理由の一つとなるのではないかと考えている。(100～150 字程度)
- ④ ペット共生社会を構築するには～という視点が必要だと私は考える。～について～といった対策が施されているが、それを応用して～にすることはできないだろうか。大切なのは～という考え方だ。私は今後、～ということを常に念頭に置いて生活していきたい。(250～300 字程度)

以上